2026年10月号
（公財）札幌市公園緑化協会　旭山記念公園管理事務所

# アカゲラ通信



## 樹洞（じゅどう）～フクロウは旭山にはいないの？





結論からいうと、旭山では、エゾフクロウ（以下フクロウ）は、たまに見られるくらいです。右写真上の撮影地は真駒内公園です。

冬から春先に園内や近くで鳴き声が聞かれる年もあり、夏の間に藻岩山方面から鳴き声が聞かれたり、水浴びする姿がセンサーカメラに写っていたり、ごくたまに姿が見られたりはしています。

しかし、旭山で繁殖したり、よくいる／来る場所があったりということは現状ではありません。

アオバズクは過去に記録がある程度、オオコノハズクは現時点で記録はありません。コノハズクも記録はないですが、そもそも山地の深い森にいる野鳥で、人里近くにはほとんど来ません。

●考えられる理由は、大きな樹洞がある木がないことです。

●樹洞は、木の幹にできた空洞です。木の幹や枝が折れた部分から中が腐ってできます。　カラ類等の小鳥しか入れないものから、フクロウ類やオシドリが入れる大きなものまであります。

野鳥に限らずエゾリスなど、森の生き物にとっては、すみかや、繁殖や休息場所に使われるなど、きわめて重要なものです。

●旭山記念公園のおよそ半分は、かつて伐開されはげ山となり、そこが、６０年前に植樹されたり、開けたまま維持されている場所で、そのエリアには大木がほとんどありません。

遊具広場の森から道路沿いの旭山川にかけての辺りは、１００年近く前に伐採され、その後手が付けられていない、比較的自然度が高い天然林の二次林で、大木もちらほらとありますが、フクロウが入るほどの樹洞がある木は今のところ確認されていません。

●２０２６年、豊平公園でオオコノハズクが繁殖しました（右写真下、幼鳥）。町中の公園で繁殖することへの驚きもありましたが、本州方面では、フクロウ、アオバズク、オオコノハズクは、樹洞があれば町中の鎮守の森や公園などで繁殖することもそれほど珍しくはないそうです。

人の近くにいることで、猛禽やカラスなど外敵が近づきにくくなるためといわれていますが、樹洞があるからできることであり、樹洞の重要性が分かる事例です。

●道東のシマフクロウ保護地では、シマフクロウが繁殖できるよう、人間の子供が入れるくらいの大きな巣箱を木にかけます。

この巣箱をフクロウもよく利用するそうで、樹洞が少なくて見つけにくいことが推測されます。

旭山で巣箱を掛けるということにはならないですが、興味深い話です。

●２０２６年８月に北大植物園でコウモリ観察会が行われました。植物園内に生息しているヤマコウモリが、日の入りとともに飛び出し、数頭が飛び交い、低い位置を飛ぶ姿も見ることができました。

ヤマコウモリも樹洞をすみかにしていますが、樹洞がある太い木は必然、、老齢木が多く、弱っていたり、倒れたり崩れたりしやすい状態で、樹洞がある大木がなくなればヤマコウモリもいなくなるかもしれないとのお話でした。

実際、樹洞のある木が折れたり倒れたりしてフクロウ類が来なくなった事例は、各地にあります。

●樹洞以外の理由として、公園内の植樹林のエリアは木と木の間隔が狭く植えられており、フクロウ類が林内を飛ぶには不適な環境であることも、フクロウ類が少ない理由のひとつと考えられます。

なお、木と木の間隔が狭いと、タカ類も飛びにくくなります。

●旭山記念公園の森は若齢で、フクロウ類が住むには適さない森であることが推察されます。

将来的に、大きな樹洞ができれば、フクロウ類が住み着いて繁殖したり頻繁に訪れたりといったことは起こるかもしれませんが、自然の営みに任せてその時を待つしかないようです。



**レストハウス「ぽるく」は　毎日 10 時から 17 時まで営業中です**

# 旭山野鳥メモ 82　エゾライチョウ



**エゾライチョウ**　Hazel Grouse　*Tetrastes bonasia*　キジ目キジ科

留鳥。概ね標高 200m 以上の主に針広混交林に生息、それ以下でも環境が合えばいることがある。開けた場所にはいない。

本州のライチョウは高山に生息するが、本種は森林限界以上の高山帯にはいない。ユーラシア大陸冷温帯地域に広く分布。日本では北海道のみに生息。雄は喉元が黒く、雌は黒くない。ライチョウのように冬羽が白くはならない。夏に見られる幼鳥はヒヨコのよう。

林道を車で走っていると地面から飛び上がって一度道路すぐ脇の木にとまり、近づくと低く飛んで林内に逃げる。高く飛ぶことはほぼない。警戒心は強いが、すぐに見えなくなることは少ない。秋に林内で「ツーツー」と甲高くよく響く声で鳴く。

旭山記念公園では 2025 年 10 月に初めて観察された（写真はその時のもの）。山の木の実などの食料が極端に少なくて低地に来たと考えられる。藻岩山では馬の背辺りでしばしば観察情報がある。

カラマツ林にはいない。北海道では20世紀以降カラマツ林が増え、生息地が狭まった可能性がある。

2026 年発表の環境省第5次レッドリストで、準絶滅危惧種に指定された。個体数は漸減しているもよう。

北海道で見たい憧れの野鳥のひとつで、苫小牧北大研究林で年により近くで見られ、他に手稲山など、道内の山林で目にする機会は意外とある。だが、生息域がヒグマと重なるので要注意願いたい。

# 2026年10月の野鳥トピックス



●**シマエナガ**：週に 3～5 回は見られるようになってきました
●**イカル**：昨年のようにヌルデの実を食べに来てはいないです
●**アオジ**：８月下旬から園内で地鳴きが聞かれ姿も見られています
●**カワラヒワ**：一時期見られなくなりましたが、９月下旬からまたよく見られています。亜種オオカワラヒワかどうかは不明です
●**ウグイス**：「ヂッ」という地鳴きが今年はよく聞かれ声を追って探すと姿が見られます。「ぐぜり」もよく聞かれています（右写真は幼鳥）
●**クマゲラ**：園内で週に 3、4 回ほど近くで見られることもある一方で、園内には来ない動きの時は 1 週間かそれ以上見られないこともあり、運しだいです
●**ヤマゲラ**：ときどき「ピョッピョッ」と鳴き声が聞かれ、近くで見られることもあります
※**キクイタダキ**、**キバシリ**、**ウソ**、**カケス**は今秋はまだ山から降りて来ておらず観察されていません

# 旭山ミニ生き物図鑑2026年10月



シマエナガ丸っこくなってきた 9/25



ニホンカナヘビ幼体近接（恐っ）9/13



オツネントンボ「越年蜻蛉」 9/5



ツノアオカメムシ今年も多い 9/18



エゾノコンギク花も終わり 9/30



カツラ果実小さなバナナのよう 9/25



ホオノキ果実右は種子裸出 9/19



ゲンノショウコ種子「神輿草」 9/13

「アカゲラ通信」　第１５５号　　２０２６（令和８）年１０月６日発行
（公財）札幌市公園緑化協会　旭山記念公園管理事務所
https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/　　〒064-0943　北海道札幌市中央区界川４丁目
電話 011-200-0311（金・土・日・祝日 10 時～16 時）FAX 011-200-0351
公式サイト